



大館市の未来を創る会 ふもと幸子通信

第10号 2024年8月発行

ふもとの主要公約を 発表します!

17回の地区対話集会で市民の皆さまの声を伺い、
発表した公約に新たに2つ追加し、10の主要公約をお伝えします。

1 学校給食費を 無償にします。

既存事業の見直し、国の交付金等で財源をつくり(2億5000万円～3億円)、まず学校給食費を無償に、さらには段階的に教育費全体を無償化します。

2 親子が集い、楽しめる 「子どもの森」をつくります。

親子、若者、高齢者など多世代が集える多目的施設「子どもの森」をまちの中心部につくります。ここを核とした魅力的な都市型エリアを創出します。

3 市立病院と扇田病院の 2体制を堅持します。

令和9年度以降も大館市立総合病院と扇田病院の2病院体制を堅持します。医療と福祉を連携させて切れ目なく支援を続け、市民の命と健康、生活を守ります。

4 女性の地位向上のために 新しい部署をつくります。

女性差別をなくし、女性の地位向上のため、市民の相談窓口となる女性だけの部署を新設します。さらに、市役所から、女性管理職の登用を進めます。

5 農業者の支援を拡大し、 新たな作り手を確保します。

農業者の補助・助成を拡大、販路開拓を支援し、機械化、デジタル化を促進し、新規就農者を増やします。

6 福祉職の処遇改善を 拡充します。

人口4割の高齢者そして障がい者など社会的弱者を支援する福祉職の処遇改善を拡充し、福祉の現場を支えます。

7 五色湖エリア 再整備事業は中止します。

約9億5000万円と予算が膨らむ五色湖エリア再整備事業は中止します。富裕層向けの一泊数万円の豪華なキャンプ場を、市民は望んでいません。

8 市役所改革プロジェクトを 発足させます。

パワハラを許さず、働きがいのある職場に改革します。ハラスメント事案(市長・副市長含む)は、内部通報者を守り、独立した調査機関を設け、徹底的に究明し、再発を防ぎます。

9 市民バス「ふれあい号」を 復活させます。

町内会のバス旅行や親子遠足など広く使用されていた市のバス「ふれあい号」がなくなり、困っている市民が多数。市民バス「ふれあい号」を復活させます。

10 議員定数検討委員会を 設置します。

人口約6万6000人の大館市の現在の議員定数は26。一方、約16万人の弘前市の議員定数は28です。適正な議員定数を検討する会議体をつくります。

ふもと幸子の基本姿勢

政党や企業のしがらみのないふもとだからできます。
育児や介護をしてきたふもとだからわかります。
ローカルとグローバル、両方の視点でふもとは実行します。

- ① 市民の目線で、市の予算を徹底して抜本的に見直します。
- ② 市民との直接対話を重視、市民の声が届く市政にします。
- ③ 市民の財産・生命・暮らし・生業を守ります。

激励メッセージ

皆さん、ふもと幸子さんを応援いただき、ありがとうございます。



日経時代の上司として、ふもとさんのやさしさが「半端ない」ことを証明します。

日経ウーマン編集長として、女性を盛り立て、女性の活躍を促した先駆者です。

私も障がい者の息子がいますが、障がい者の働ける場所をつくっていることに頭が下がります。

どしゃ降りの日も、炎天下の日も、100日以上も路上に立って地域のために頑張る決意を語っています。

そんなふもとさんをどうぞよろしくお願いたします。

元日経BP副社長、元日経ビジネス発行人
社会福祉法人「愛光」副理事長

酒井綱一郎



サポーター
募集中!

ふもと幸子後援会にご入会ください!

ご入会ご希望の方は、下記へご連絡ください。WEBサイトからもご入会手続きが可能です。

ふもと幸子と秋田おばこの会(後援会)

〒017-0828 秋田県大館市向町 27 (旧阿部写真館)

TEL 0186-59-9465 FAX 0186-59-9475 携帯 090-1373-0460 (事務局)

メール fumosachi@gmail.com WEBサイト fumotosachiko.com



Webサイト



メール



Facebook



YouTube

ふもと幸子の
WEB情報



ふもと幸子プロフィール

1962年大館市生まれ。誕生当時、祖父・勇吉は初代比内町町長を務めており、父・淳二は火薬販売業とりんご農家を営む。1968年大館市立扇田小学校入学。当時の愛称は「フモヨン」。1974年大館市立比内中学校に入学。陸上部に所属。1977年秋田県立大館鳳鳴高校に入学。新聞部に所属。1980年筑波大学入学。フランス哲学専攻。1984年日経BP社入社。日経ウーマン創刊メンバーとなる。2006年日経ウーマン編集長に就任。2014年法政大学大学院経営学研究科修了。文部科学省、内閣府、林野庁などの有識者委員を歴任。2016年日経BP社執行役員。2019年故郷に貢献したいという思いで帰郷を決意。共生社会づくりの拠点として比内ヒルズ(扇田・長岡城跡)での活動スタート。高齢者や障がい者支援事業、6次化事業などに参画する。この5月まで大館商工会議所女性会副会長を務めた。『地方を変える女性たち』『イマドキ女性管理職の働き方』など著書多数。家族は夫、母、独立した子ども2人。孫3人。

現在の主な肩書

社会福祉士
作家・ジャーナリスト
大館市障害者施策推進審議会委員
大館市立扇田小学校同窓会会長
比内町芸術文化協会副会長
秋田県手をつなぐ育成会副会長